

## 長崎市外海地区（出津・黒崎）における屋敷石垣が構成する文化的景観に関する考察

長崎大学工学部 学生会員 ○陳 舒潔 長崎大学工学部 フェロー 岡林 隆敏  
 長崎大学工学部 学生会員 関 暁麗

## 1. はじめに

長崎市外海地区（出津・黒崎）はカトリック教会（出津教会・大野教会・黒崎教会）を中心とした集落を形成している。これらの集落は九州の西端の海岸と山地が構成する風土の上に西洋様式の建築物が点在し、日本の他では見られない文化的景観を構成している。本研究は、屋敷石垣の分布と全容を把握し、文化的景観の視点から外海地区（出津・黒崎）の屋敷石垣の踏査と評価を行ったものである。



写真-1 出津地区の景観

## 2. 外海地区（出津・黒崎）の文化的景観

## 1) 地理的景観

外海地区は西彼杵半島の南西部にあり、2005年に長崎市に編入した。面積46.62km<sup>2</sup>の大部分は、標高400m内外の起伏に富んだ丘陵で形成されており、平坦地に乏しい。河川は、5本の二級河川があり、これらの河川とその支流によって侵食された谷部のわずかな平坦地に農地と集落が形成されている。（写真-1、図-1）

## 2) 歴史・文化的景観

外海地区は急峻な西側斜面地形を開墾し石垣を築いて畑地や住宅を形成してきた地域である。この地域で産出する黒色片岩は、層状に剥離し易い性質のために、この地域の多くの畑や屋敷の石垣の材料として使われ、重要な景観要素となっている。山林の斜面に発達した耕作地は、段々畑や棚田が広がる景観を構成している。

## 3. 調査対象と調査方法

## 1) 黒色片岩の石垣

外海地区全体の地質は黒色片岩から構成されている。岩質は柔らかく、層状に剥離することができ、切石のような石材として使用できる。簡単に割ることができるために、民家の壁材や石垣として広く使用されている。これらの石材を作った石垣は特有な素材感と黒灰色の色調で地域の景観を構成している。

## 2) 外海地区（出津・黒崎）屋敷石垣調査

長崎市外海地区における民家石垣の状況を把握するため、平成21年9月～12月にかけて現地調査を行った。撮影した写真を地図上で管理するために、外海地区の10mメッシュ地形図を使用した。地形図は、カシミール3Dソフトで数値地図25000のデータと基盤地図(10mメッシュ標高のみ)のデータを重ねて作成した。この地形図を用いることにより外海地区の地形が直観的に判断できるようになった。

## 3) PSカメラによる現地調査

GPS情報を記録できるカメラ(NIKON社製)で撮影した写真は、

表-1 出津・黒崎地区の調査石垣数

	数量(ヶ所)
出津	±23
赤首	±8
牧野	±39
上黒崎	±10
下黒崎	±48
松本	±9
永田	±5
高尾	±4
合計	±145



図-1 長崎市外海地区（出津・黒崎）



図-2 調査方法



図-3 現地調査により外海地区の石垣の民家の場所

View. NX ソフト(NIKON 社製)により撮影場所の緯度と経度を取付た。これをカシミール 3D ソフトと連動させて、外海地区の 10m メッシュ地形図の上に石垣の民家の位置を示し、屋敷石垣の地図データベースを作成した。(図一 2, 図一 3)

4. 文化的景観要素としての屋敷石垣

1) 出津・黒崎の屋敷石垣の特徴

屋敷石垣は出津・黒崎地区の図一 3 (表一 1) に示した場所に集中している。そこで、調査地域を出津地区の出津、赤首、牧野の 3 集落と黒崎地区の上黒崎、下黒崎、松本、永田、高尾の 5 集落とした。調査した箇所を表一 1 にしめした。各石垣の写真は統一して、①石垣と屋敷の全景、②正面、③側面、④石垣の詳細を撮影した。図一 4 にこれらの写真の 2 事例を示した。切石でない割った石であるために、自然の素朴な景観となっている。石垣は基本的に空積みであるので、空隙が多く、年を経ると植物が着生し易く、環境に調和した風景を構成している。

2) 石垣データベースの作成

これらの石垣の写真を出津地区 70 戸、黒崎地区 75 戸、合計 145 戸し、図一 5 のような 4 種類の写真と GPS 情報をエクセルによりデータベース化した。このような表現をすることにより集約して石垣群が構成する景観を顕在化することができる。さらに、石垣規模の大きさ、建設年代などのデータを今後取得する必要がある

5. 出津・黒崎地区の地形と屋敷石垣の分布

1) 屋敷石垣の分布

出津・黒崎地区の地形と屋敷石垣の分布を図一 6 に示した。

出津・黒崎地区の各河谷について、南面する北側に耕地が多く開かれ、多くの集落がある。これに対して、南岸は急傾斜地で、耕地や集落に乏しい。このため、石垣の民家は多くに河川の北側に立地している。屋敷石垣が集中している集落は、地形が急峻で、比較的集落が密集している地域に発達しているように思われる。

2) 文化的景観要素としての屋敷石垣の評価

外海地区(出津・黒崎)の屋敷石垣はパノラマ的に眺望できる場所もあるか、道路を巡回して観察できるところもあり、石垣の分布形態を把握することにより景観をより顕在化することができることになる。同じ岩質で、同様な構成の石垣が集中する集落では、この地区の屋敷石垣は周囲の樹林や畑の緑の中に、溶け込んだ文化的景観としての重要な要因となって、重要な文化的景観を構成している。

6. まとめ

広域の景観調査に GPS カメラを利用し、数値地図と連動させて GIS により景観の広域的調査を実現した。その結果、外海地区の石垣の民家は当地の独特な雰囲気構成し、文化的景観としてできるものであることを確認した。本研究により、外海地区の石垣の民家の分布状況と数量を把握したが、石垣の歴史的経緯、石垣の構造(うら込め)、石垣の施工法、岩石の切り出しなど、石垣の構造と施工法を明らかにしたいと考えている。

【参考文献】

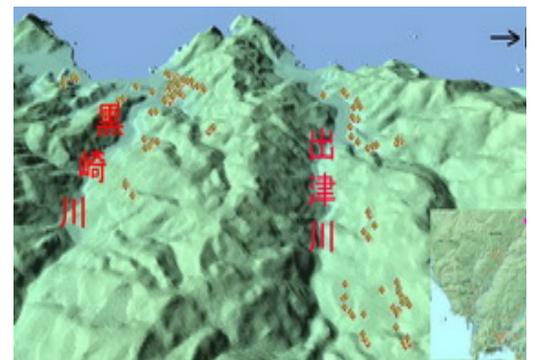
- 1、片岡弥吉：ある明治の福祉像 ド・ロ神父の生涯，日本放送出版協会，昭和 52 年。
- 2、平野武光：外海町誌，外海町役場，昭和 49 年。



図一 4 外海地区石垣の民家の写真

	A	B	C	D	E
1	名前	写真			
2		全体	正面	側面	一部
3	下黒崎				
4	1				
5					
6					
7	2				
8					
9					
10	3				
11					
12					
13	4				
14					
15					
16	5				
17					
18					
19	6				
20					
21					
22	7				
23					
24					
25	8				
26					
27					

図一 5 Excel で作成した調査写真の整理



図一 6 外海地区の地形と石垣の民家の分布